

Cトラックの楽しみ方

ManasLink ONLINE 編集長 野口隆史

シンポジウム開催前のポジションペーパーより

Cトラックは人や社会という観点で私たちが直面する諸問題を俯瞰する場です。問題が起こったときに、「解決策」を考えるアプローチは本当に正しいのでしょうか？もっと言うと、その「問題」は「解決しなければいけない問題」なのでしょうか。

問題解決は、まず現象から問題を切り分け、切り分けられた問題をいかに早く効率的に解決するか、というアプローチです。今やアジャイル開発の手法を使い、さらにAIを組み合わせることで、問題解決は非常に素早くできる時代になっています。

しかし、それが私たちの生活を豊かにするかどうかは未知数です。その先にある未来はもしかしたら、とても便利ではあるものの、どこかせわしなく、何かのきっかけで瓦解してしまうもろい世界かもしれません。

本イベントはAIをテーマに未来を創造するイベントですが、本トラックはそこから一步下がって、人とはなにか、社会とはなにかを検討する場です。すぐに役に立つ、お金を生む、とう性質のトラックではありませんが、いつかどこかで迷ったときに、一息入れて落ち着いて考えることができるきっかけになるのものを企図しています。

本トラックの前半は、人類の英知である、対話と弁証法を体験していただく場です。いずれも成熟した社会の基盤となる考え方です。人と人とのコミュニケーションにはさまざまな形がありますが、対話は単なる情報伝達でも指揮命令系統でも結論を出す方法でもなく、相手をリスペクトしともに成長していく過程を共有しつつづけていく姿勢です。目的は効率化でも問題解決でもなく、相互の漸進的な成長です。いくら自分が正しいと思っても、それを正しいものとして押しつけるのではなく、それはそれとしていったん置いておいて相手の話に耳を傾けてなにか得られるもの

がないか、ないとしても次の機会に期待するというのが対話のあり方です。

弁証法はその対話をもとにして話のテーマを一段ずつ昇華させていく方法論です。問題を解決するのではなく、もしかしたら問題が消えてなくなり、新しい地平線が開けてくるかもしれません。

こうした前半での取り組みを元にして、後半では具体的なドメインのテーマを会場全体で語り合います。連想検索エンジンで知の新しい形を模索する高野先生、複雑化する社会のセキュリティ基盤を構築している米澤氏、そしてコミュニティベースのメディア活動をしている私（野口）が、それぞれの現在の立ち位置、イメージしている未来像、もやもやしていてまだ見えていない未来への階段を会場の皆さんと作り上げていければと思っています。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております！

